

## ラインワークス導入経緯・運用状況

導 入：令和4年9月～

経 緯：災害時医療救護体制には、区・四師会・民間企業・医療機関等の様々な組織が関係しており、各々が独自の連絡手段を利用している。そのため、災害時の共通の連絡手段として、災害医療運営連絡会での検討を経てラインワークスを導入した。

利用者：医療救護所参集者（医師会・歯科医師会・薬剤師会・柔道整復師会・サポートナース）、災害時医療機関、災害時協定団体、各医療救護所本部、四師会本部  
災害医療コーディネーター、災害薬事コーディネーター、災害対策健康部職員

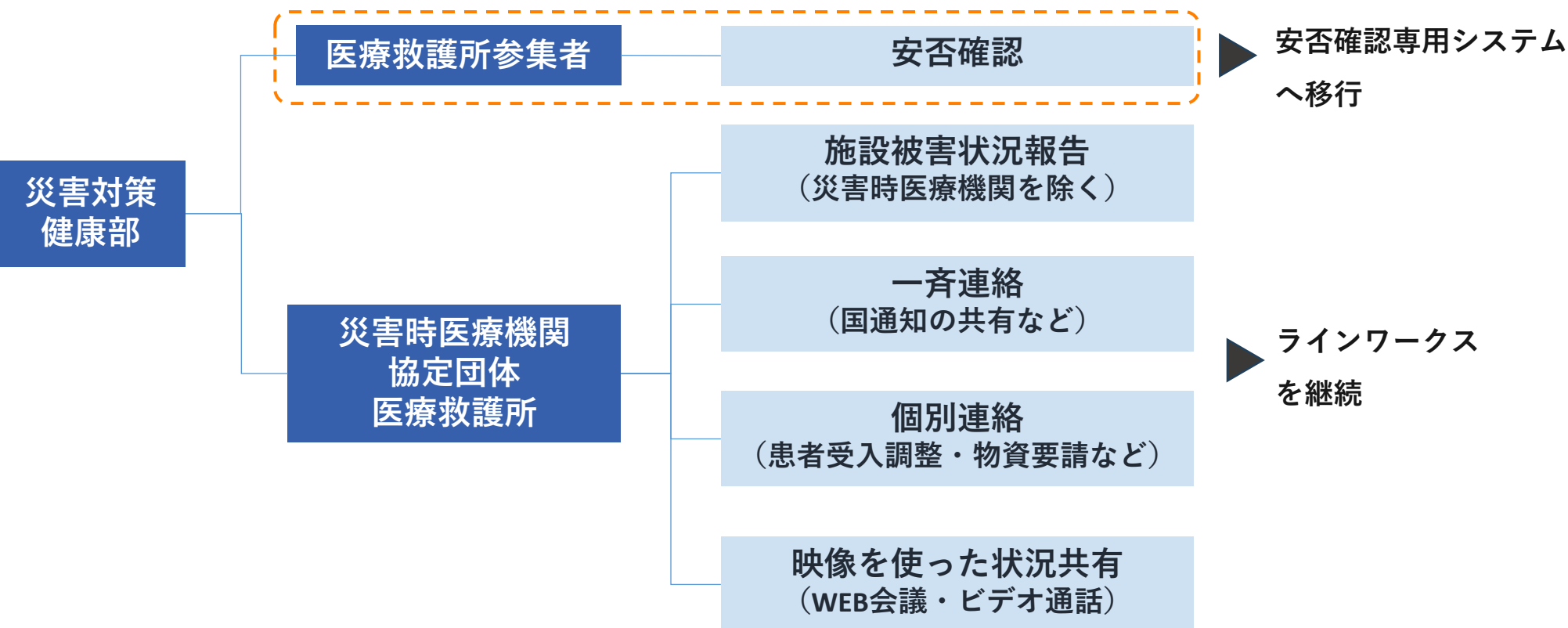
運用状況：定期配信、定期訓練を通じて、利用方法の習得を図っている。

## 見直しの内容

- ① 医療救護所参集者の**安否確認システム**への移行【令和7年9月～実施予定】
- ② 災害時医療機関における**ラインワークスとEMISの使い分け**の整理

## ① 医療救護所参集者の安否確認システムへの移行【令和7年9月～実施予定】

ラインワークス利用者の内、医療救護所参集者については、ラインワークスの利用を停止し、新たに導入する安否確認専用システムへ移行する。なお、災害時医療機関等は、ラインワークスを引き継ぎ利用する。



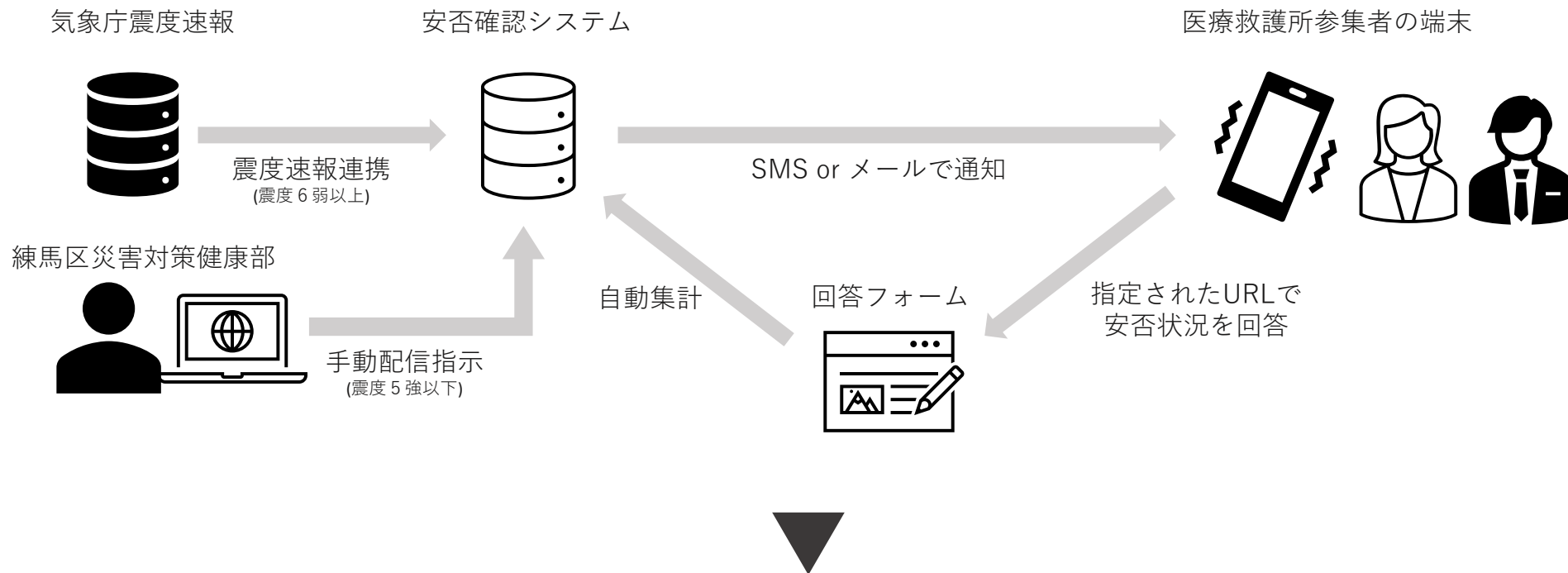
### ラインワークスでの安否確認の課題

- ・ 震度に応じた自動配信機能の未搭載
- ・ ID・パスワード管理が煩雑
- ・ 多機能に由来する操作項目の多さ

▶ 安否確認専用システムへの移行で解決する

## ① 安否確認システムの利用イメージ

ラインワークスではできなかった気象庁震度速報との連携による自動配信が可能となる。また、アプリのインストールやID・パスワードの管理がなくなり、迅速かつ確実な対応が可能となる。



### ◆導入効果・メリット

- ① 自動配信機能により、確実な安否確認が実施可能となる。
- ② アプリのインストールやID・パスワードの管理が不要になる。
- ③ マルチシステムから専用システムに移行することで操作が簡略化されコストも削減できる。

## ② EMISとラインワークスの使い分けの整理（再周知）

災害時医療機関における情報連絡ツールの優先順位および使い分けについて、以下のとおり整理する。

### ◆情報連絡ツールの優先順位

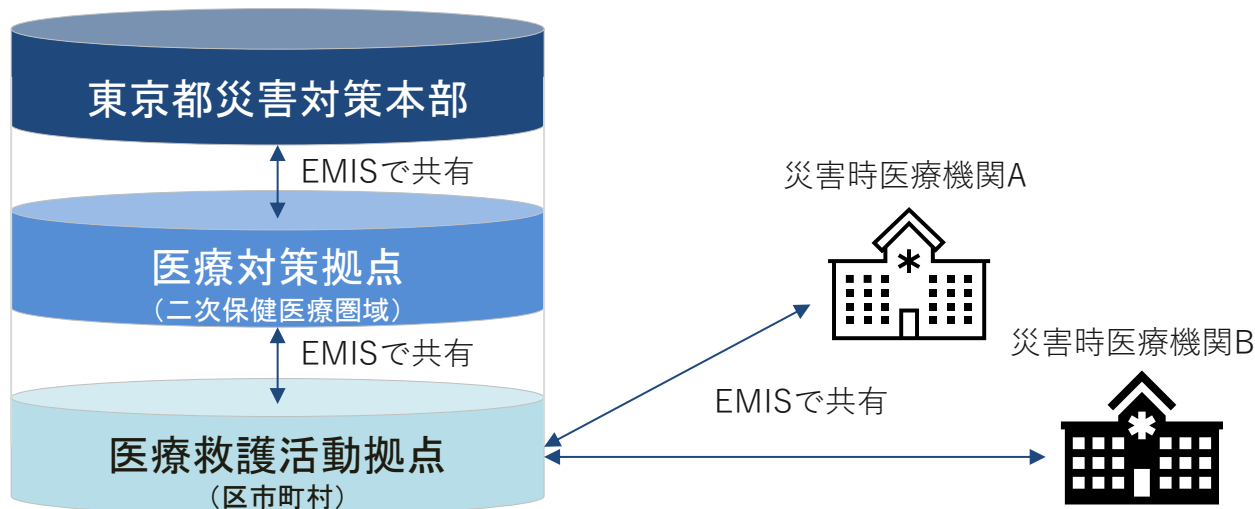
- ① EMIS ※次頁のEMIS対象情報に限る
- ② LINE WORKS
- ③ メール・固定（携帯）電話・FAX  
防災無線（導入施設のみ）
- ④ 衛星携帯電話（導入施設のみ）
- ⑤ 口頭報告

高  
↑  
低



災害時医療機関は**EMISが利用できない場合**、  
②～⑤の手段を用いて、区に情報を伝達する。  
区はEMISを代行入力し東京都に報告する。  
なお、LINE WORKSが利用できない場合は、③～  
⑤の手段で行う。

### ◆東京都地域防災計画における情報共有体制



**EMISを中心**とした  
情報共有体制により  
広域での迅速な支援が可能となる

## ② EMISとラインワークスの使い分けの整理（再周知）

災害時医療機関におけるEMIS（広域災害救急医療情報システム）の報告情報およびLINE WORKSを使った情報連絡内容は以下のとおりとする。

### ◆EMIS対象情報（災害時医療機関）



#### ・施設の被害状況

倒壊状況

ライフライン状況



#### ・人的支援の要否

職員参集状況

派遣要請の有無



#### ・物的支援の要否

医薬品等の不足状況

その他支援が必要なもの



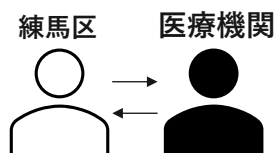
#### ・患者対応状況

受診状況

搬送が必要な患者数

受入可能な患者数

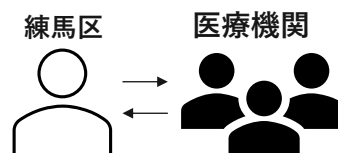
### ◆LINE WORKSでの情報連絡



#### ・1対1の個別連絡

患者の受入調整、搬送調整

人員の派遣や不足物資の補給調整



#### ・1対多数の一斉連絡

区・都からの通知等の情報共有

定期報告（EMIS）の入力要請



#### ・EMISの代替報告手段

EMISと同情報の報告